

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2012 年 10 月 4 日(04.10.2012)



(10) 国際公開番号

WO 2012/132886 A1

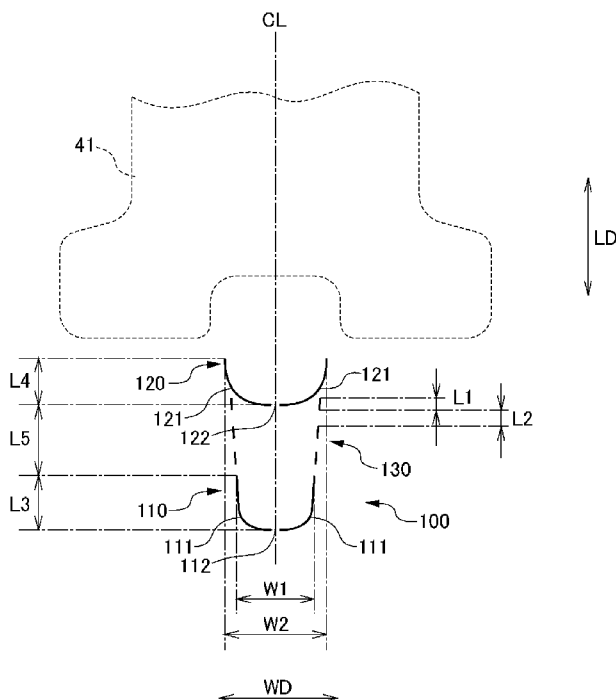
- (51) 国際特許分類:
A01K 23/00 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2012/056468
- (22) 国際出願日: 2012 年 3 月 13 日(13.03.2012)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2011-073663 2011 年 3 月 29 日(29.03.2011) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): ユニ・チャーム株式会社 (Uni-Charm Corporation) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてののみ): 小松原 大介 (KOMATSUBARA, Daisuke) [JP/JP]; 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社 テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 池上 武 (IKEGAMI, Takeshi) [JP/JP]; 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社 テクニカルセンター内 Kagawa (JP).
- (74) 代理人: 正林 真之, 外 (SHOBAYASHI, Masayuki et al.); 〒1000005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サビアタワー Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨー

[続葉有]

(54) Title: PET DIAPER

(54) 発明の名称: ペット用おむつ

[図4]



れる第 1 易切開部 1 3 0 と、を更に備える。

(57) Abstract: Provided is a pet diaper that can be placed on a suitable part of a pet depending on the gender of the pet. This pet diaper (1) is equipped with a front surface layer (2), a back surface layer (3), and an absorbent layer (4) disposed between the front surface layer (2) and the back surface layer (3). The pet diaper (1) has a back portion (A), an abdominal portion (C), and a crotch portion (B) disposed between the back portion (A) and the abdominal portion (C). The pet diaper (1) is further equipped with: a first cut portion (110) that is provided on the back portion (A) and that is formed as a convex curve rounding towards the end portion of the back portion (A); a second cut portion (120) that is provided closer to the crotch portion (B) than the first cut portion (110) and that is formed as a convex curve rounding towards the end portion of the back portion (A); and a first perforated portion (130) that is formed so as to extend from the second cut portion (120) towards the first cut portion (110).

(57) 要約: ペットの性別に応じた適切な位置で装着させられるペット用おむつを提供すること。表面層 2、裏面層 3、及び表面層 2 と裏面層 3 との間に配置される吸収層 4 を備え、背当部 A と、腹当部 C と、背当部 A と腹当部 C との間に配置される股当部 B と、を有するペット用おむつ 1 であって、背当部 A に設けられ、背当部 A の端部側に向けて凸となるように湾曲して形成される第 1 切れ込み部 1 1 0 と、第 1 切れ込み部 1 1 0 よりも股当部 B 側に設けられ、背当部 A の端部側に向けて凸となるように湾曲して形成される第 2 切れ込み部 1 2 0 と、第 2 切れ込み部 1 2 0 から第 1 切れ込み部 1 1 0 に向かって延びるように形成さ



ロツパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE,
ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV,
MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK,
SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ,
GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称： ペット用おむつ

技術分野

[0001] 本発明は、犬やネコ等のペットに装着するペット用おむつに関する。

背景技術

[0002] 従来、犬やネコ等のペットに用いられるペット用おむつが提案されている。このようなペット用おむつは、装着時にペットの背中付近に配置される背当部と、ペットの腹付近に配置される腹当部と、ペットの股（後足の付け根間）付近に配置される股当部と、を備え、腹当部及び股当部に液吸収性の吸収体が配置されている。

また、背当部に尻尾を通すための尻尾通し穴を設け、尻尾を有するペットに好適に装着できるペット用おむつも提案されている。

[0003] 例えば、特許文献1には、尻尾通し穴をミシン目により形成すると共に、この尻尾通し穴を、環状部分と、この環状部分を区画する区画部分とを含んで構成したペット用おむつが提案されている。

特許文献1で提案されたペット用おむつによれば、装着対象のペットの尻尾の大きさや位置に応じて、環状部分及び区画部分を構成するミシン目を適宜切開して、この切開した部分に尻尾を通すことで、装着対象のペットの尻尾の大きさや位置に対応して尻尾通し穴を形成できる。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：特開平10-75679号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] ところで、犬やネコ等のペットは、性別によって、尿道口の位置が異なる。即ち、メスのペットの尿道口は、後足の付け根間に位置するのに対して、オスのペットの尿道口は、後足の付け根間よりも前方に配置される性器の先

端に位置する。そのため、ペット用おむつを同じ種類のペットや同程度の大きさのペットに装着する場合でも、オスのペットに装着する場合は、後足の付け根間よりも前側から排泄される尿を好適に吸収するため、吸収体が配置された腹当部を、できるだけ身体の前側まで位置させることが好ましい。一方、ペット用おむつをメスのペットに装着する場合は、後足の付け根間から排泄される尿を好適に吸収するため、吸収体が配置された股下部を、できるだけ身体の後側まで（尻尾の近くまで）位置させることが好ましい。

[0006] ここで、特許文献1で提案されたペット用おむつは、尻尾の大きさや位置に応じて環状部分における所望の位置に尻尾通し穴を形成できる。しかしながら、このペット用おむつでは、環状部分及び区画部分のどの位置を切開しても尻尾通し穴を形成できるため、吸収体をペットの身体の適切な位置に配置するという観点から、ペットの性別に応じた好適な位置に尻尾穴を形成することが難しかった。そのため、ペットの性別に応じた適切な位置でペット用おむつを装着できない場合があった。

[0007] 従って、本発明は、ペットの性別に応じた適切な位置で装着できるペット用おむつを提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0008] 本発明は、液透過性の表面層、液不透過性の裏面層、及び該表面層と該裏面層との間に配置される液吸収性の吸収層を備え、ペットの背中付近に配置される背当部と、該ペットの腹付近に配置される腹当部と、前記背当部と前記腹当部との間に配置され前記ペットの股付近に配置される股当部と、を有するペット用おむつであって、前記背当部に設けられ、前記股当部側と反対側又は前記股当部側に向けて凸となるように形成される第1切れ込み部と、前記第1切れ込み部よりも前記股当部側に設けられ、前記股当部側と反対側又は前記股当部側に向けて凸となるように形成される第2切れ込み部と、前記第2切れ込み部から前記第1切れ込み部に向かって延びるように形成される第1易切開部と、を更に備えるペット用おむつに関する。

[0009] また、前記第1切れ込み部及び／又は前記第2切れ込み部は、複数の切開

部と、隣り合う2つの前記切開部の間に設けられる非切開部と、を含んで構成されることが好ましい。

[0010] また、前記第1易切開部は、ミシン目により構成され、前記切開部の長さは、前記ミシン目の長さよりも長く構成されることが好ましい。

[0011] また、ペット用おむつは、前記第1切れ込み部から前記背当部の端部側に延びる第2易切開部を更に備えることが好ましい。

[0012] また、前記吸収層は、液吸収性を有する吸収性コアと、該吸収性コアを被覆するコアラップシートと、を備えて構成され、前記吸収性コアは、前記腹当部及び前記股当部に配置され、前記コアラップシートは、前記腹当部、前記股当部及び前記背当部に配置されることが好ましい。

発明の効果

[0013] 本発明のペット用おむつによれば、ペットの性別に応じた適切な位置で装着できる。

図面の簡単な説明

[0014] [図1]本発明の第1実施形態に係るペット用おむつを示す平面図である。

[図2]図1のX-X線断面図である。

[図3]図1のY-Y線断面図である。

[図4]第1実施形態に係るペット用おむつの尻尾通し穴部を示す拡大平面図である。

[図5]第1実施形態のペット用おむつをメスのペットに装着した状態を示す図である。

[図6]第1実施形態のペット用おむつをオスのペットに装着した状態を示す図である。

[図7]第2実施形態のペット用おむつの尻尾通し穴部の近傍を示す平面図である。

[図8]尻尾通し穴部の変形例を示す平面図である。

[図9]尻尾通し穴部の変形例を示す平面図である。

発明を実施するための形態

[0015] 以下、本発明のペット用おむつの好ましい各実施形態について、図面を参照しながら説明する。

まず、第1実施形態のペット用おむつについて、図1～図4を参照しながら説明する。

第1実施形態のペット用おむつ1は、図1に示すように、平面視において縦長状に構成され、長手方向の中央部が幅方向の内方に括れた形状を有する。このペット用おむつ1は、長手方向の一端側に配置される背当部Aと、長手方向の他端側に配置される腹当部Cと、これら背当部A及び腹当部Cとの間に配置される股当部Bと、を備え、背当部Aにペットの尻尾を通すための尻尾通し穴部100が形成されている。尻尾通し穴部100の詳細については、後述する。

[0016] 尚、本実施形態において、背当部Aは、装着対象のペットの背中付近（背中及び尻尾部分を含む領域）に配置される部位を示す。腹当部Cは、装着対象のペットの腹付近に配置される部位を示す。股当部Bは、装着対象のペットの股付近（後足の付け根間及びその近傍）に配置される部位を示す。

[0017] ペット用おむつ1は、図1～図3に示すように、表面層としての表面シート2と、裏面層3を構成する裏面シート31及び防水シート32と、吸収層としての吸収体4と、表面シート2の外側面に配置される一対のサイドシート5と、一対の第1弾性部材61と、一対の第2弾性部材62と、一対のファスニングテープ7と、ランディングテープ8と、を備える。

[0018] 表面シート2は、図1に示すように、矩形形状に構成される。この表面シート2は、主として、装着対象のペットの身体に当接する側の面を構成する。表面シート2としては、有孔又は無孔の不織布や多孔性プラスチックシートを用いることができる。

[0019] 裏面シート31は、図1～図3に示すように、表面シート2よりも幅広で、表面シート2と略等しい長さの矩形形状に構成される。裏面シート31は、ペット用おむつ1の外形形状と一致する形状を有する。この裏面シート31は、ペット用おむつ1の反身体側の面を構成する。

防水シート 3 2 は、図 2 及び図 3 に示すように、表面シート 2 よりも幅広かつ裏面シート 3 1 よりも幅狭に構成される。この防水シート 3 2 は、裏面シート 3 1 における表面シート 2 側の面に配置される。

裏面シート 3 1 及び防水シート 3 2 としては、疎水性の不織布、不透水性のプラスチックフィルム、不織布と不透水性プラスチックフィルムとのラミネートシート、耐水性の高いメルトブローン不織布を強度の強いスパンボンド不織布で挟んだSMS不織布等を用いることができる。

[0020] 以上の表面シート 2、裏面シート 3 1 及び防水シート 3 2 は、ペット用おむつ 1 の背当部 A から腹当部 C に亘って配置される。

[0021] 吸収体 4 は、図 4 に示すように、重ね合わせられた表面シート 2 及び裏面層 3 の間に介在配置される。吸収体 4 は、図 1 ～図 3 に示すように、液保持性を有する吸収性コア 4 1 と、この吸収性コア 4 1 を被覆するコアラップシート 4 2 と、を備える。

吸収性コア 4 1 は、図 1 に示すように、平面視において略矩形形状に構成され、腹当部 C 及び股当部 B に配置される。より具体的には、吸収性コア 4 1 は、一对の側部における股当部 B に対応する部分がペット用おむつ 1 の幅方向の内方に括れ、かつ、背当部 A 側の端部における中央部が凹んだ形状を有している。

[0022] コアラップシート 4 2 は、吸収性コア 4 1 の表面シート 2 側及び裏面層 3 側にそれぞれ配置されて、吸収性コア 4 1 を被覆する。コアラップシート 4 2 は、図 1 に示すように、吸収性コア 4 1 よりも大きい矩形形状に構成され、腹当部 C、股当部 B 及び背当部 A に配置される。

即ち、第 1 実施形態では、背当部 A には、吸収性コア 4 1 は配置されず、コアラップシート 4 2 のみが配置される。

[0023] 吸収性コア 4 1 としては、フラッフ状パルプに高吸収ポリマーを保持させたものを用いることができる。吸収性コア 4 1 に用いられるフラッフ状パルプとしては、例えば、化学パルプ、セルロース繊維、レーヨン、アセテート等の人工セルロース繊維が挙げられる。高吸収ポリマーとしては、デンプン

系、アクリル酸系、アミノ酸系の粒子状又は繊維状のポリマーが挙げられる。

コアラップシート42としては、ティッシュ、不織布、開口フィルム等の液透過性のシートを用いることができる。

[0024] 一对のサイドシート5は、図1に示すように、細長い矩形形状に構成され、表面シート2の長手方向に沿う側部の身体側にそれぞれ配置される。一对のサイドシート5の長さは、表面シート2及び裏面シート31の長さと略等しく構成される。一对のサイドシート5の外側縁は、図2及び図3に示すように、裏面シート31の側縁の位置と一致している。一对のサイドシート5の外側縁側は、裏面シート31の側部に接合されている。

一对のサイドシート5の内側縁は、少なくともペット用おむつ1の長手方向の中央部において、自由端となっている。

[0025] サイドシート5としては、撥水性又は疎水性を有するものが好ましく用いられ、具体的には、スパンレース不織布、スパンボンド不織布、サーマルボンド不織布、メルトブローン不織布、ニードルパンチ不織布、エアースルー不織布等の各種不織布を用いることができる。不織布を構成する素材繊維としてはポリエチレン又はポリプロピレン等のオレフィン系、ポリエステル系、ポリアミド系等の合成繊維の他、レーヨンやキュプラ等の再生繊維、綿等の天然繊維を用いることができる。

[0026] 第1弾性部材61は、図1及び図2に示すように、一对のサイドシート5それぞれの内側縁近傍に配置される。より具体的には、第1弾性部材61は、図2及び図3に示すように、内側縁側で折り返されたサイドシート5の間に挟まれると共に、伸長状態でサイドシート5に固定される。

第1弾性部材61は、ペット用おむつ1の背当部Aから腹当部Cに亘って配置される。

[0027] 第2弾性部材62は、図1～図3に示すように、ペット用おむつ1の長手方向LDに沿う一对の側部それぞれに配置される。より具体的には、第2弾性部材62は、図2及び図3に示すように、サイドシート5と裏面シート3

1との間に配置される。また、第2弾性部材62は、伸長状態で、サイドシート5及び裏面シート31に固定される。

第2弾性部材62は、ペット用おむつ1の股当部Bの全域、及び背当部A及び腹当部Cの一部に配置される。

[0028] 一对のファスニングテープ7は、腹当部Cにおけるペット用おむつ1の幅方向WDの両側部に配置される。より具体的には、一对のファスニングテープ7は、腹当部Cにおけるサイドシート5及び裏面シート31が幅方向WDの外方に延出した部分に取り付けられており、腹当部Cの両側部から幅方向の外方に延出する。ファスニングテープ7の一方の面には、複数のフック部（図示せず）が設けられている。

ランディングテープ8は、図1に示すように、背当部Aの外面（裏面シート31側の面）に配置される。ランディングテープ8は、矩形形状に構成され、長手方向がペット用おむつ1の幅方向WDに沿うように取り付けられる。ランディングテープ8の外面には、複数のループ部（図示せず）が設けられており、このループ部にファスニングテープ7のフック部を係合させることで、ファスニングテープ7をランディングテープ8に係止させられる。

[0029] 次に、第1実施形態の尻尾通し穴部100につき、図4を参照しながら説明する。図4は、第1実施形態に係る尻尾通し穴部100を示す拡大平面図である。

尻尾通し穴部100は、図4に示すように、背当部Aの幅方向WDの中央部におけるコアラップシート42が配置された領域に形成される。この尻尾通し穴部100は、第1切れ込み部110と、第2切れ込み部120と、一对の第1易切開部130と、を備える。

[0030] 第1切れ込み部110は、図1及び図4に示すように、ペット用おむつ1の長手方向LDにおける背当部A側の端部（股当部B側と反対側）に向けて凸となるように湾曲した円弧状（半円状）に形成される。この第1切れ込み部110は、図3及び図4に示すように、背当部Aを構成する部材（表面シート2、2枚のコアラップシート42、防水シート32及び裏面シート31

）が切開されて形成された2つの切開部111と、これら2つの切開部111の間に設けられる非切開部112と、を備える。

[0031] 2つの切開部111は、ペット用おむつ1の長手方向LDに延びる縦中心線CL（図4参照）に線対称の形状に形成される。非切開部112は、容易に切り離すことができる程度の長さ（例えば、約3mm程度）に構成される。

以上の第1切れ込み部110では、非切開部112を切り離すことで、2つの切開部111がつながる。これにより、第1切れ込み部110により、円弧状（半円状）の尻尾通し穴が形成される。

[0032] 第2切れ込み部120は、第1切れ込み部110よりも股当部B側に配置される。より具体的には、第2切れ込み部120は、図1に示すように、背当部Aにおける股当部Bとの境界近傍に、吸収性コア41に近接して配置される。第2切れ込み部120は、第1切れ込み部110と同様に、ペット用おむつ1の長手方向LDにおける背当部A側の端部にむけて凸となるように湾曲した円弧状（半円状）に形成される。この第2切れ込み部120は、背当部Aを構成する部材（表面シート2、2枚のコアラップシート42、防水シート32及び裏面シート31）が切開されて形成された2つの切開部121と、これら2つの切開部121の間に設けられる非切開部122と、を備える。

[0033] 2つの切開部121は、ペット用おむつ1の長手方向LDに延びる縦中心線CLに線対称の形状に形成される。非切開部122は、容易に切り離すことができる程度の長さ（例えば、約3mm程度）に構成される。

以上の第2切れ込み部120では、非切開部122を切り離すことで、2つの切開部121がつながる。これにより、第2切れ込み部120により、円弧状（半円状）の尻尾通し穴が形成される。

[0034] 一对の第1易切開部130は、図4に示すように、第2切れ込み部120から第1切れ込み部110に向かって延びる。より具体的には、一对の第1易切開部130は、第1切れ込み部110の股当部B側の端部と、第2切れ

込み部 120 の幅方向 WD の側部とをつなぐように形成される。

[0035] 第 1 実施形態では、一对の第 1 易切開部 130 は、背当部 A に形成されたミシン目により構成される。ミシン目それぞれの長さ（切開された部分の長さ）L1 は、第 1 切れ込み部 110 を構成する切開部 111 の長さ、及び第 2 切れ込み部 120 を構成する切開部 121 の長さよりも短く構成される。また、ミシン目それぞれの長さ L1 は、ミシン目における非切開部分の長さ L2 よりも短く構成される。具体的には、ミシン目それぞれの長さ L1 は、3 mm～5 mm に形成され、非切開部分の長さ L2 は、4 mm～6 mm に形成される。

[0036] 以上の尻尾通し穴部 100 において、第 1 切れ込み部 110 の幅方向 WD の長さ W1 は、好ましくは 20 mm～50 mm である。また、第 1 切れ込み部 110 の長手方向 LD の長さ L3 は、好ましくは 20 mm～50 mm である。

また、第 2 切れ込み部 120 の幅方向 WD の長さ W2 は、好ましくは 20 mm～50 mm である。また、第 2 切れ込み部 120 の長手方向 LD の長さ L4 は、好ましくは 20 mm～50 mm である。

また、第 1 切れ込み部 110 と第 2 切れ込み部 120 との間の長さ L5 は、好ましくは 15 mm～40 mm である。

[0037] 以上のペット用おむつ 1 は、第 1 弾性部材 61 がペット用おむつ 1 の長手方向 LD に沿って伸長状態で一对のサイドシート 5 に固定されている。また、第 2 弾性部材 62 がペット用おむつ 1 の長手方向 LD に沿って、股当部 B における両側部に伸長状態で固定されている。そのため、ペット用おむつ 1 は、自然状態（外力を付加しない状態）では、ペット用おむつ 1 の長手方向 LD に沿う一对の側部に、長手方向 LD に伸縮可能な一对のレッグギャザー部 11 が形成される（図 5 及び図 6 参照）。また、一对のサイドシート 5 における自由端側が立ち上がり、サイドシート 5 の内面と表面シート 2 の外面との間に、ポケット部 12 が形成される（図 2 参照）。

[0038] 次に、第 1 実施形態のペット用おむつ 1 をペットに装着した状態につき、

図5及び図6を参照しながら説明する。図5は、第1実施形態のペット用おむつ1を、ペットとしてのメスの犬に装着した状態を示す図である。図6は、第1実施形態のペット用おむつ1を、ペットとしてのオスの犬に装着した状態を示す図である。

[0039] まず、ペット用おむつ1をペットとしてのメスの犬に装着する場合について、図5を参照しながら説明する。

メスの犬の尿道口は、後足の付け根間に位置する。そのため、後足の付け根間から排泄される尿を吸収体4（吸収性コア41）により好適に吸収するため、吸収性コア41が配置された股当部Bを、できるだけ犬の身体の後側まで（尻尾の近くまで）位置させることが好ましい。

そこで、ペット用おむつ1をメスの犬に装着する場合には、まず、第2切れ込み部120の非切開部122を切り離して第2切れ込み部120により尻尾通し穴を形成し、この尻尾通し穴に犬の尻尾を通す。次いで、背当部Aを犬の背中の後部に当てると共に、腹当部Cを犬の後足の間から腹側に押し込む。次いで、腹当部Cの両側部を犬の胴回りに沿って背中側に引っ張り、この腹当部Cに配置された一对のファスニングテープ7を、背当部Aの外面に配置されたランディングテープ8に係合させる。

[0040] これにより、図5に示すように、吸収性コア41を尻尾の近くまで位置させた状態で、犬にペット用おむつ1を装着できる。また、装着対象の犬の尻尾が太い場合には、第1易切開部130を第1切れ込み部110側に向かって切開することで（図5の矢印A参照）、好適な大きさの尻尾通し穴を形成できる。

[0041] 次に、ペット用おむつ1をオスの犬に装着する場合について、図6を参照しながら説明する。

オスの犬の尿道口は、後足の付け根間よりも前方に配置される性器の先端に位置する。そのため、ペット用おむつ1を、オスのペットに装着する場合は、後足の付け根間よりも前側から排泄される尿を好適に吸収するため、吸収体4（吸収性コア41）が配置された腹当部Cを、できるだけ身体の前側

まで位置させることが好ましい。

そこで、ペット用おむつ 1 をオスの犬に装着する場合には、まず、第 1 切れ込み部 110 の非切開部 112 を切り離して第 1 切れ込み部 110 により尻尾通し穴を形成し、この尻尾通し穴に犬の尻尾を通す。次いで、背当部 A を犬の背中の後部に当てると共に、腹当部 C を犬の後足の間から腹側に押し込む。次いで、腹当部 C の両側部を犬の胴回りに沿って背中側に引っ張り、この腹当部 C に配置された一対のファスニングテープ 7 を、背当部 A の外面に配置されたランディングテープ 8 に係合させる。

[0042] このように、背当部 A の端部側に設けた第 1 切れ込み部 110 に尻尾を通すことで、図 6 に示すように、図 5 に示す状態に比して、腹当部 C（吸収性コア 41）を犬の身体の前側まで位置させた状態で、犬にペット用おむつ 1 を装着できる。これにより、ペット用おむつ 1 を装着した場合に、腹当部 C により性器の先端側まで好適に覆うことができるので、腹当部 C 側からの尿の漏れを低減できる。また、装着対象の犬の尻尾が太い場合には、第 1 易切開部 130 を第 2 切れ込み部 120 側に向かって切開することで（図 6 の矢印 B 参照）、好適な大きさの尻尾通し穴を形成できる。

更に、この場合、第 2 切れ込み部 120 が形成されている位置の近傍に犬の肛門が位置する。そのため、犬にペット用おむつ 1 を装着した状態において、糞については、ペット用おむつ 1 に排泄させずに対応したい場合には、第 2 切れ込み部 120 の非切開部 122 を切り離して第 2 切れ込み部 120 を開口させることで、ペット用おむつ 1 を装着した状態で、糞をペット用おむつ 1 の外部に排泄させられる。また、糞を排泄させるための開口が小さい場合には、第 1 易切開部 130 を第 1 切れ込み部 110 側に向かって切開することで（図 6 の矢印 C 参照）、好適な大きさの開口を形成できる。これにより、第 1 切れ込み部 110 により形成した尻尾通し穴を必要以上に大きく開口させることなく、糞をペット用おむつ 1 の外部に排泄させられる。

[0043] 以上説明した第 1 実施形態のペット用おむつ 1 によれば、以下のような作用効果を奏する。

[0044] (1) メスの犬の尿道口は、後足の付け根間に位置するのに対して、オスの犬の尿道口は、後足の付け根間よりも前方に配置される性器の先端に位置する。そこで、尻尾通し穴部100を、背当部Aに設けた第1切れ込み部110と、背当部Aにおける第1切れ込み部120よりも股当部B側に設けた第2切れ込み部120と、を含んで構成した。これにより、ペット用おむつ1をメスの犬に装着する場合には、股当部B側に位置する第2切れ込み部120により尻尾通し穴を形成し、ペット用おむつ1をオスの犬に装着する場合には、第1切れ込み部110により尻尾通し穴を形成できる。よって、ペット用おむつ1をメスの犬に装着する場合には、吸収性コア41が配置された股当部Bを尻尾の近くまで位置させられ、ペット用おむつ1をオスのペットに装着する場合には、吸収性コア41が配置された腹当部Cをペットの身体の前側まで位置させられるので、ペットの性別に応じた適切な位置でペット用おむつ1を装着させられる。

[0045] (2) 尻尾通し穴部100を、第2切れ込み部120から第1切れ込み部110に向けて延びる一对の第1易切開部130を含んで構成した。これにより、ペット用おむつ1をメスの犬に装着する場合に、第1易切開部130を第2切れ込み部120側から第1切れ込み部110側に向けて適宜切開することで、好適な大きさの尻尾通し穴を形成できる。よって、第2切れ込み部120の大きさを小さくしつつ、好適な大きさの尻尾通し穴を形成できる。また、第2切れ込み部120よりも股当部B側には、尻尾通し穴を拡大させないので、第2切れ込み部120を、吸収性コア41のより近傍に配置できる。その結果、第2切れ込み部120からの尿等の漏れを低減できる。

また、ペット用おむつ1をオスの犬に装着する場合に、第1易切開部130を第1切れ込み部110側から第2切れ込み部120側に向けて適宜切開することで、好適な大きさの尻尾通し穴を形成できる。

更に、ペット用おむつ1をオスの犬に装着する場合には、第2切れ込み部120が形成されている位置の近傍に犬の肛門が位置する。そのため、犬にペット用おむつ1を装着した状態において、糞については、ペット用おむつ

1に排泄させずに対応したい場合には、第2切れ込み部120の非切開部122を切り離して第2切れ込み部120を開口させることで、ペット用おむつ1を装着した状態で、糞をペット用おむつ1の外部に排泄させられる。また、糞を排泄させるための開口が小さい場合には、第1易切開部130を第1切れ込み部110側に向かって切開することで（図6の矢印C参照）、好適な大きさの開口を形成できる。これにより、第1切れ込み部110により形成した尻尾通し穴を必要以上に大きく開口させることなく、糞をペット用おむつ1の外部に排泄させられる。

[0046] （3）第1切れ込み部110を、2つの切開部111と、非切開部112と、を含んで構成し、第2切れ込み部120を、2つの切開部121と、非切開部122と、を含んで構成した。これにより、非切開部112、122により、第1切れ込み部110及び第2切れ込み部120の不要な開口を防げる。よって、尻尾通し穴等に使用しない場合に第1切れ込み部110及び第2切れ込み部120が開口することによる悪影響を防げる。

例えば、ペット用おむつ1をオスの犬に装着する場合には、第2切れ込み部120が形成されている位置の近傍に犬の肛門が位置する。ここで、第2切れ込み部120は、非切開部122により、閉鎖状態が維持されている。これにより、ペット用おむつ1を装着したオスの犬が糞を排泄した場合であっても、排泄された糞が第2切れ込み部120から脱出することを防止できる。

[0047] （4）第1易切開部130をミシン目により構成し、切開部111、121の長さを、ミシン目の長さL1よりも長く構成した。これにより、第1切れ込み部110の位置及び第2切れ込み部120の位置を、第1易切開部130よりも視認しやすくできると共に、第1切れ込み部110及び第2切れ込み部120を、第1易切開部130よりも容易に開口させられる。よって、第1切れ込み部110及び第2切れ込み部120の位置を、ペット用おむつ1を犬に装着する飼い主に容易に認識させられるので、ペットの性別に応じた適切な位置でペット用おむつ1を装着させられる。

[0048] (5) 吸収体を、吸収性コア 4 1 と、この吸収性コア 4 1 を被覆するコアラップシート 4 2 と、を含んで構成し、コアラップシート 4 2 を、背当部 A にも配置させた。これにより、第 1 切れ込み部 1 1 0 及び第 2 切れ込み部 1 2 0 が形成された位置に、コアラップシート 4 2 を配置させられる。よって、コアラップシート 4 2 により、第 1 切れ込み部 1 1 0 及び第 2 切れ込み部 1 2 0 から漏れ出す尿等の液体を吸収できるので、尻尾通し穴部 1 0 0 からの液体の漏れをより効果的に低減できる。

[0049] 次に、本発明の第 2 実施形態に係るペット用おむつ 1 について、図 7 を参照しながら説明する。図 7 は、第 2 実施形態のペット用おむつ 1 を示す平面図である。

尚、第 2 実施形態以降の説明にあたって、同一構成要件については同一符号を付し、その説明を省略もしくは簡略化する。

第 2 実施形態のペット用おむつ 1 は、尻尾通し穴部 1 0 0 の構成において、第 1 実施形態と異なる。

第 2 実施形態では、尻尾通し穴部 1 0 0 は、一对の第 2 易切開部 1 4 0 を更に備える。

一对の第 2 易切開部 1 4 0 は、図 7 に示すように、第 1 切れ込み部 1 1 0 の幅方向 W D の側部から背当部 A の端部側に延びる。

[0050] 一对の第 2 易切開部 1 4 0 は、背当部 A に形成されたミシン目により構成される。ミシン目それぞれの長さは、第 1 易切開部 1 3 0 を構成するミシン目と同じ長さに構成される。

また、第 2 実施形態では、第 1 切れ込み部 1 1 0 及び第 2 切れ込み部 1 2 0 は、非切開部を含まず構成される。

第 2 実施形態のペット用おむつ 1 によれば、上述した (1)、(2)、(4) 及び (5) の作用効果を奏する他、以下のような作用効果を奏する。

[0051] (6) 尻尾通し穴部 1 0 0 を、一对の第 2 易切開部 1 4 0 を含んで構成した。これにより、第 2 易切開部 1 4 0 を切開することにより、第 1 切れ込み部 1 1 0 により形成される尻尾通し穴の大きさを、好適に調整できる。

[0052] 以上、本発明の好ましい各実施形態について説明したが、本発明は、上述した各実施形態に制限されるものではなく、適宜変更が可能である。

例えば、第1実施形態及び第2実施形態では、本発明を、一对のファスニングテープ7とランディングテープ8とにより装着する展開型のペット用おむつ1に適用したが、これに限らない。即ち、本発明を、いわゆるパンツ型のペット用おむつに適用してもよい。

[0053] また、第1実施形態では、第1切れ込み部110を、2つの切開部111とこれら2つの切開部111の間に設けられた非切開部112とにより構成し、第2切れ込み部120を、2つの切開部121とこれら2つの切開部121の間に設けられた非切開部122とにより構成したが、これに限らない。即ち、第1切れ込み部及び第2切れ込み部を、3つ以上の切開部と、2つ以上の非切開部とにより構成してもよい。

[0054] また、図8に示すように、第2切れ込み部120のみを、2つの切開部121とこれら2つの切開部121の間に設けられた非切開部122とにより構成し、第1切れ込み部110を、非切開部を設けずに構成してもよい。

[0055] また、第1実施形態及び第2実施形態では、第1切れ込み部110及び第2切れ込み部120を、ペット用おむつ1の長手方向LDにおける背当部A側の端部（股当部B側と反対側）に向けて凸となるように形成したが、これに限らない。即ち、図9に示すように、第1切れ込み部110及び第2切れ込み部120を、股当部B側に向けて凸となるように形成してもよい。

[0056] また、第1実施形態及び第2実施形態では、第1易切開部130及び第2易切開部140を、ミシン目により構成したが、これに限らない。即ち、第1易切開部及び第2易切開部を、背当部Aを構成する部材の一部（例えば、表面シート、防水シート及び裏面シート）のみを第1易切開部及び第2易切開部の全長に亘って切開し、他の部材（例えば、コアラップシート）を切開せずに構成してもよい。

符号の説明

[0057] 1 ペット用おむつ

2 表面シート（表面層）

3 裏面層

4 吸収体（吸収層）

4 1 吸収性コア

4 2 コアラップシート

1 1 0 第1切れ込み部

1 1 1 切開部

1 1 2 非切開部

1 2 0 第2切れ込み部

1 2 1 切開部

1 2 2 非切開部

1 3 0 第1易切開部

1 4 0 第2易切開部

A 背当部

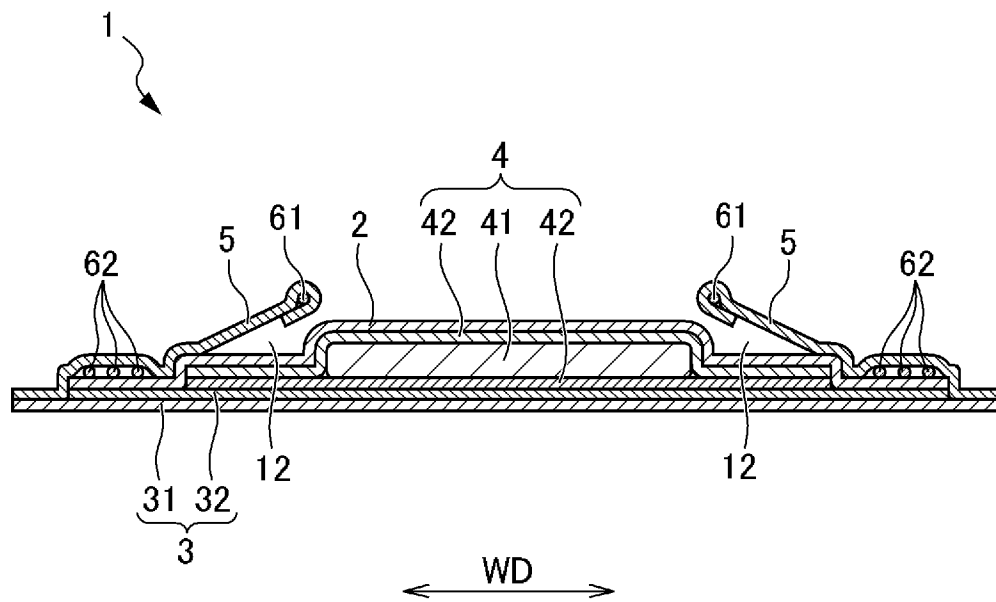
B 股当部

C 腹当部

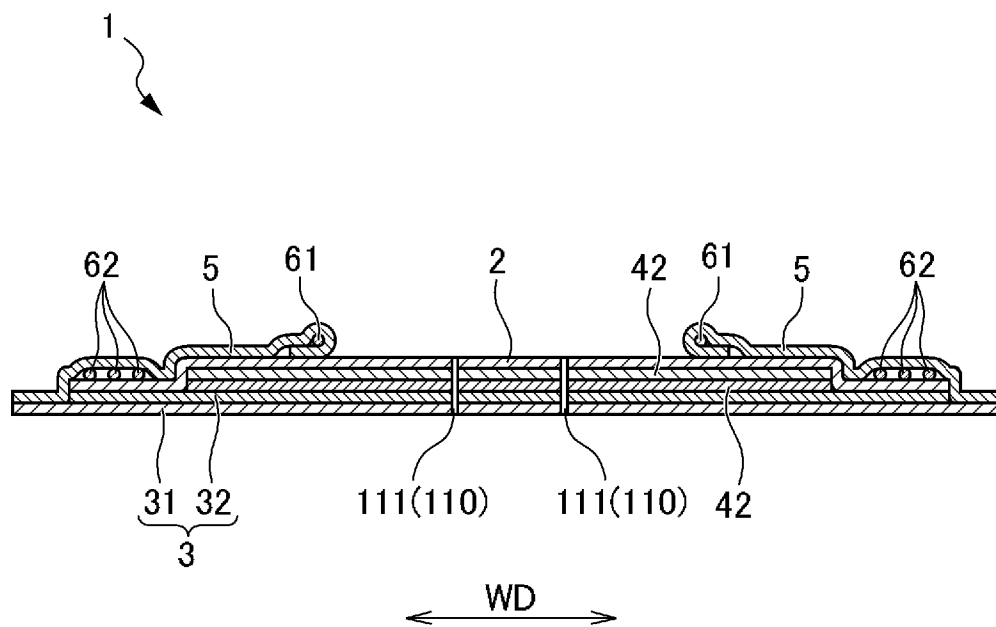
請求の範囲

- [請求項1] 液透過性の表面層、液不透過性の裏面層、及び該表面層と該裏面層との間に配置される液吸収性の吸収層を備え、ペットの背中付近に配置される背当部と、該ペットの腹付近に配置される腹当部と、前記背当部と前記腹当部との間に配置され前記ペットの股付近に配置される股当部と、を有するペット用おむつであって、
- 前記背当部に設けられ、前記股当部側と反対側又は前記股当部側に向けて凸となるように形成される第1切れ込み部と、
- 前記第1切れ込み部よりも前記股当部側に設けられ、前記股当部側と反対側又は前記股当部側に向けて凸となるように形成される第2切れ込み部と、
- 前記第2切れ込み部から前記第1切れ込み部に向かって延びるように形成される第1易切開部と、を更に備えるペット用おむつ。
- [請求項2] 前記第1切れ込み部及び／又は前記第2切れ込み部は、複数の切開部と、隣り合う2つの前記切開部の間に設けられる非切開部と、を含んで構成される請求項1に記載のペット用おむつ。
- [請求項3] 前記第1易切開部は、ミシン目により構成され、
- 前記切開部の長さは、前記ミシン目の長さよりも長く構成される請求項2に記載のペット用おむつ。
- [請求項4] 前記第1切れ込み部から前記背当部の端部側に延びる第2易切開部を更に備える請求項1～3のいずれかに記載のペット用おむつ。
- [請求項5] 前記吸収層は、液吸収性を有する吸収性コアと、該吸収性コアを被覆するコアラップシートと、を備えて構成され、
- 前記吸収性コアは、前記腹当部及び前記股当部に配置され、
- 前記コアラップシートは、前記腹当部、前記股当部及び前記背当部に配置される請求項1～4のいずれかに記載のペット用おむつ。

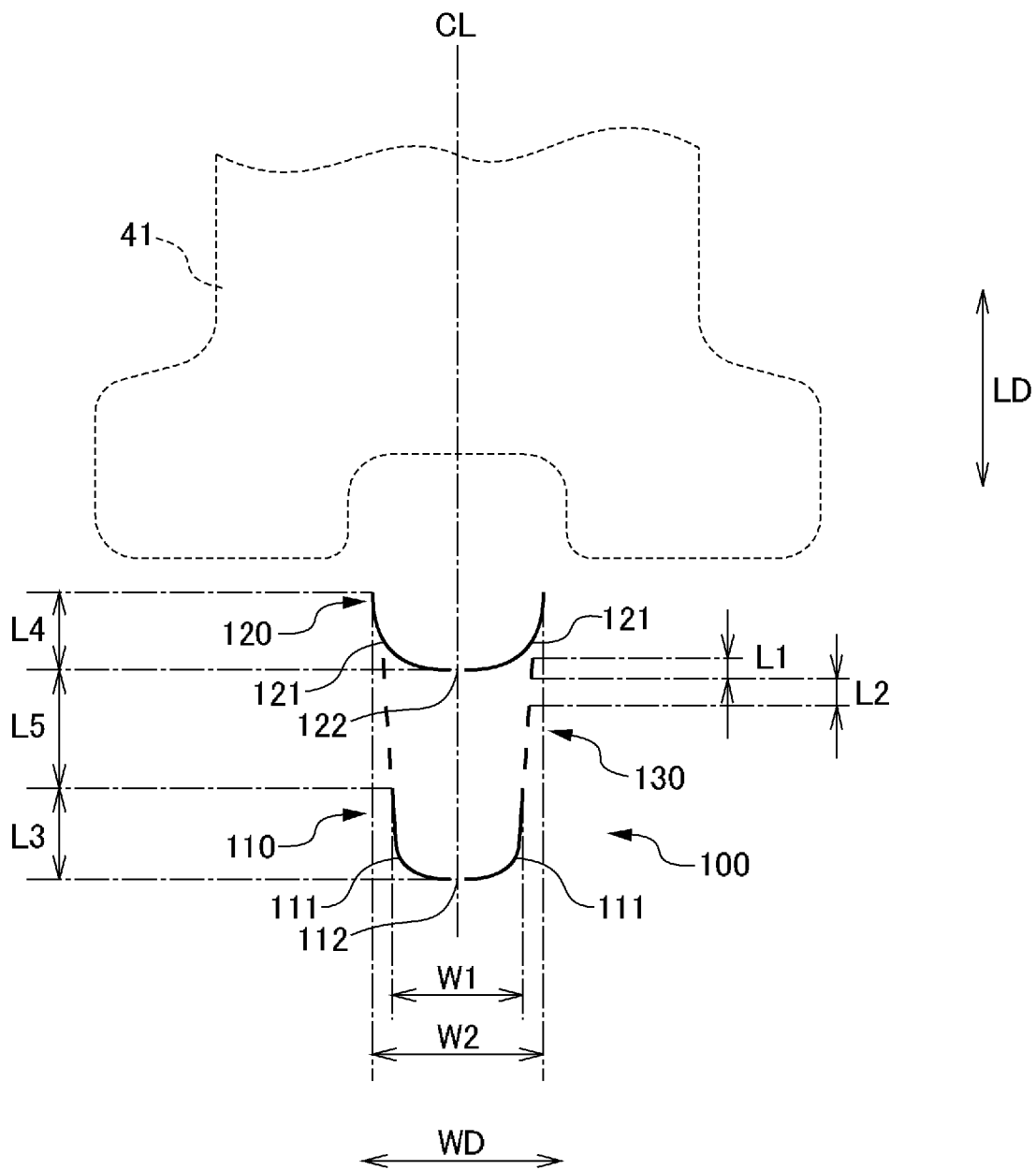
[図2]



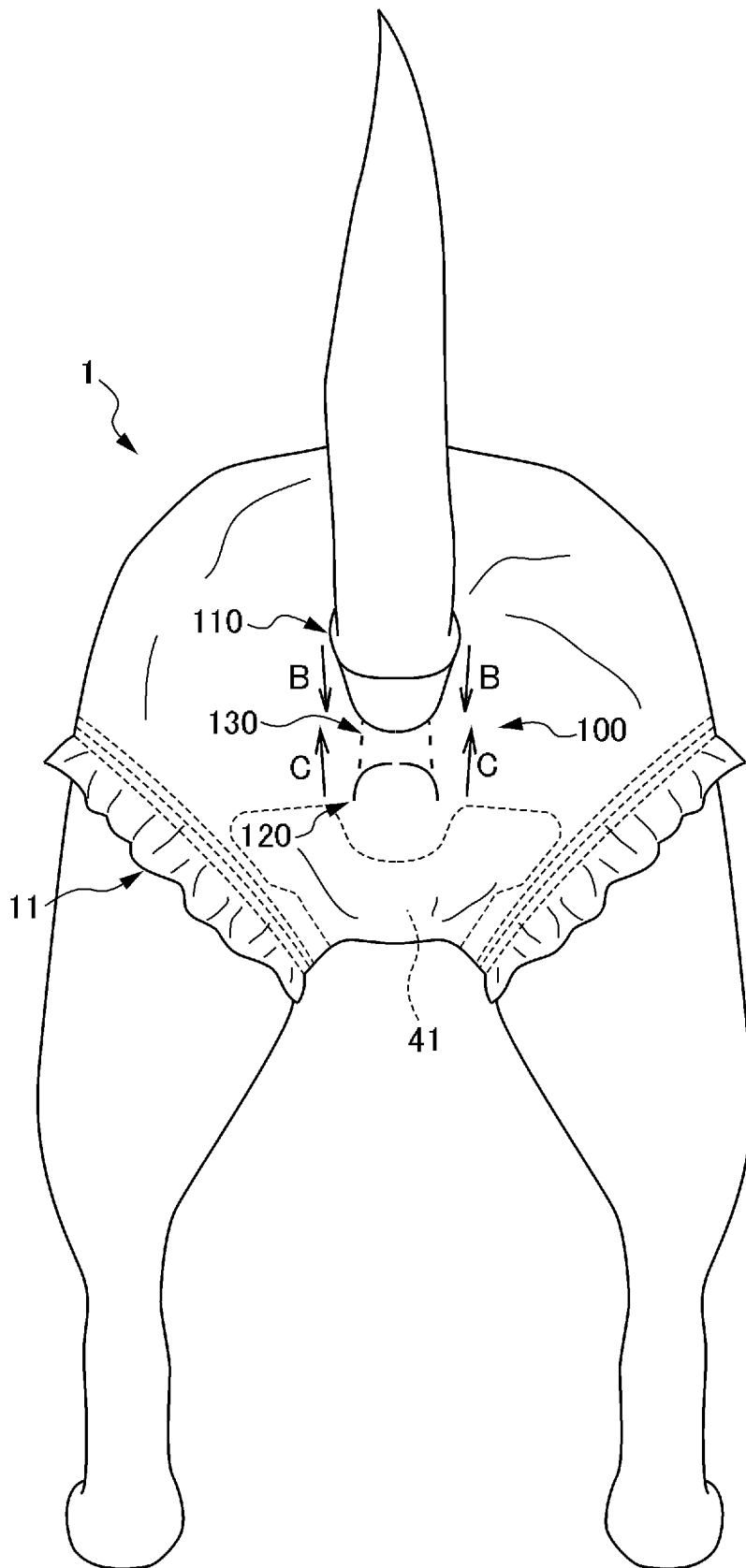
[図3]



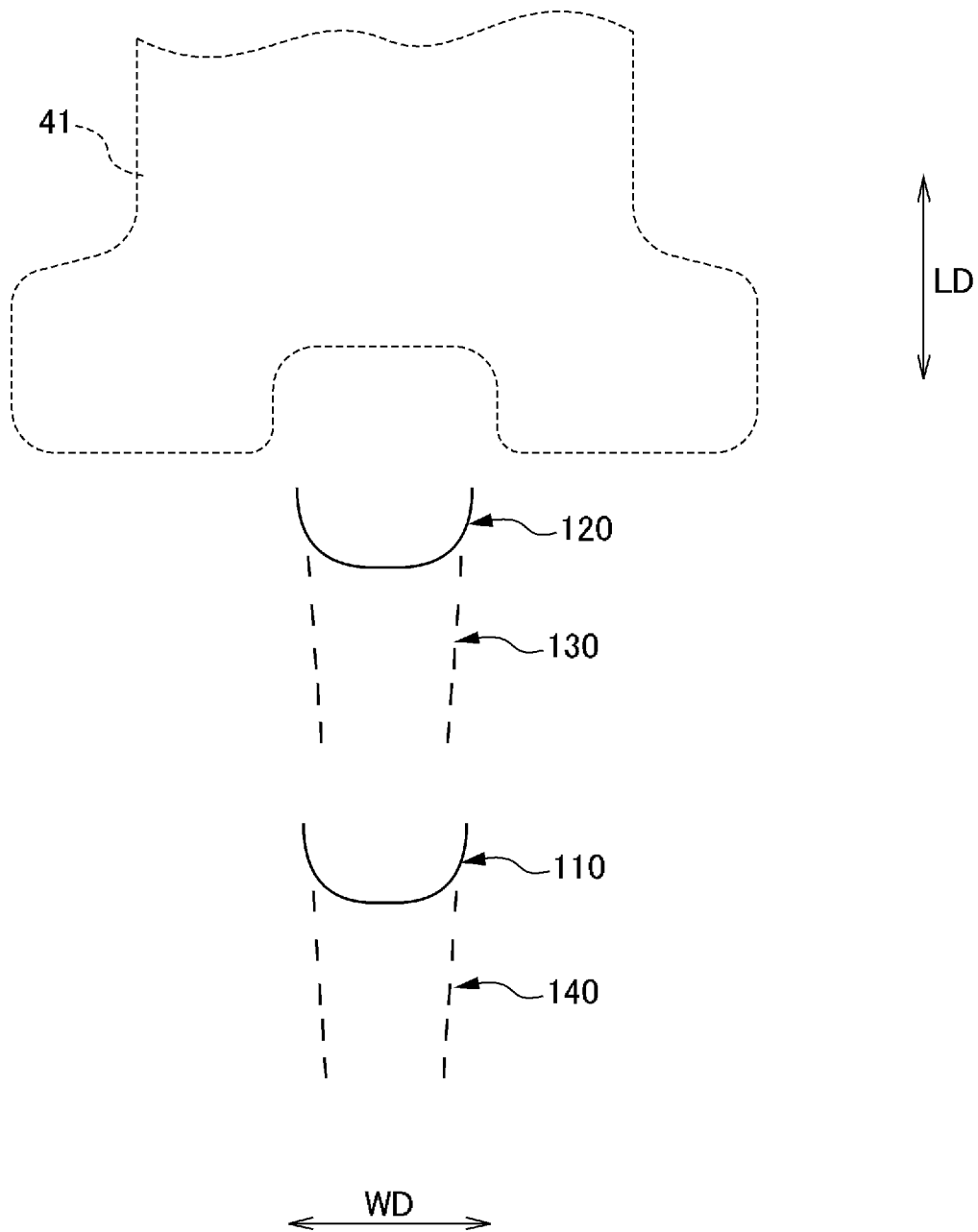
[図4]



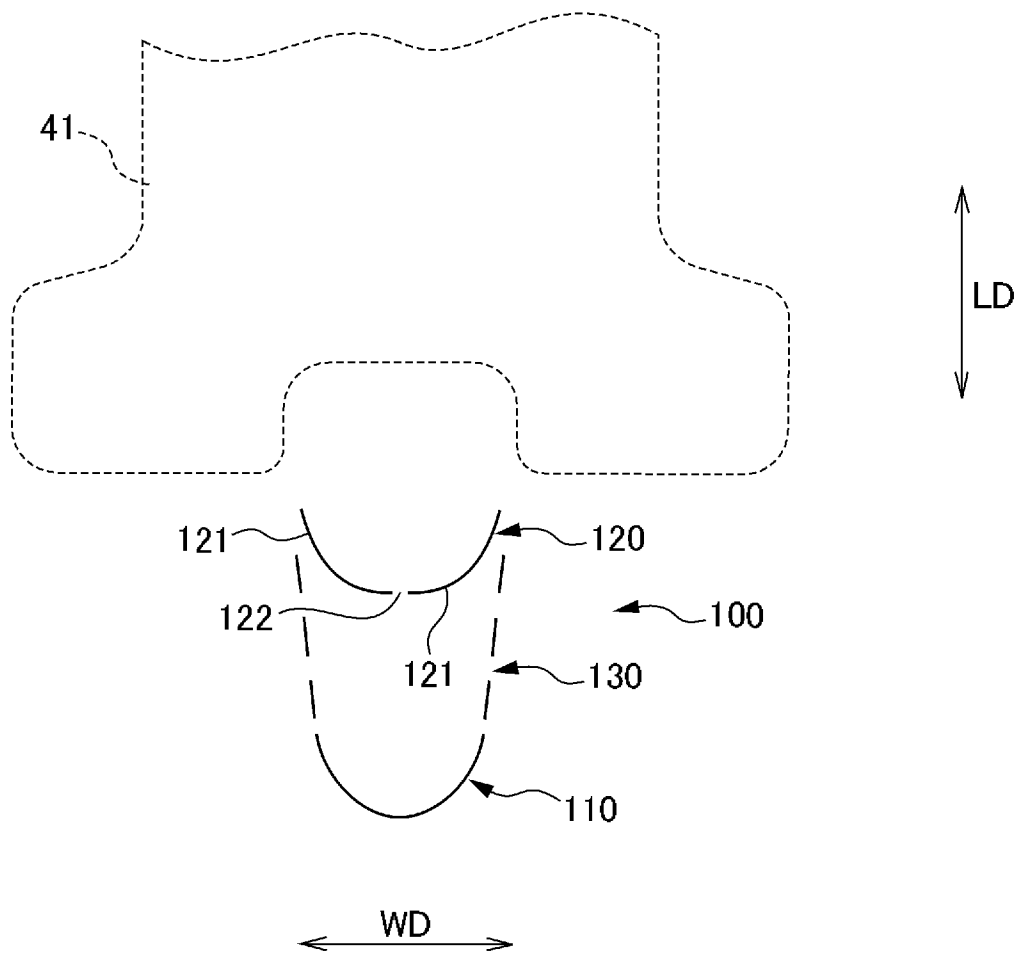
[図6]



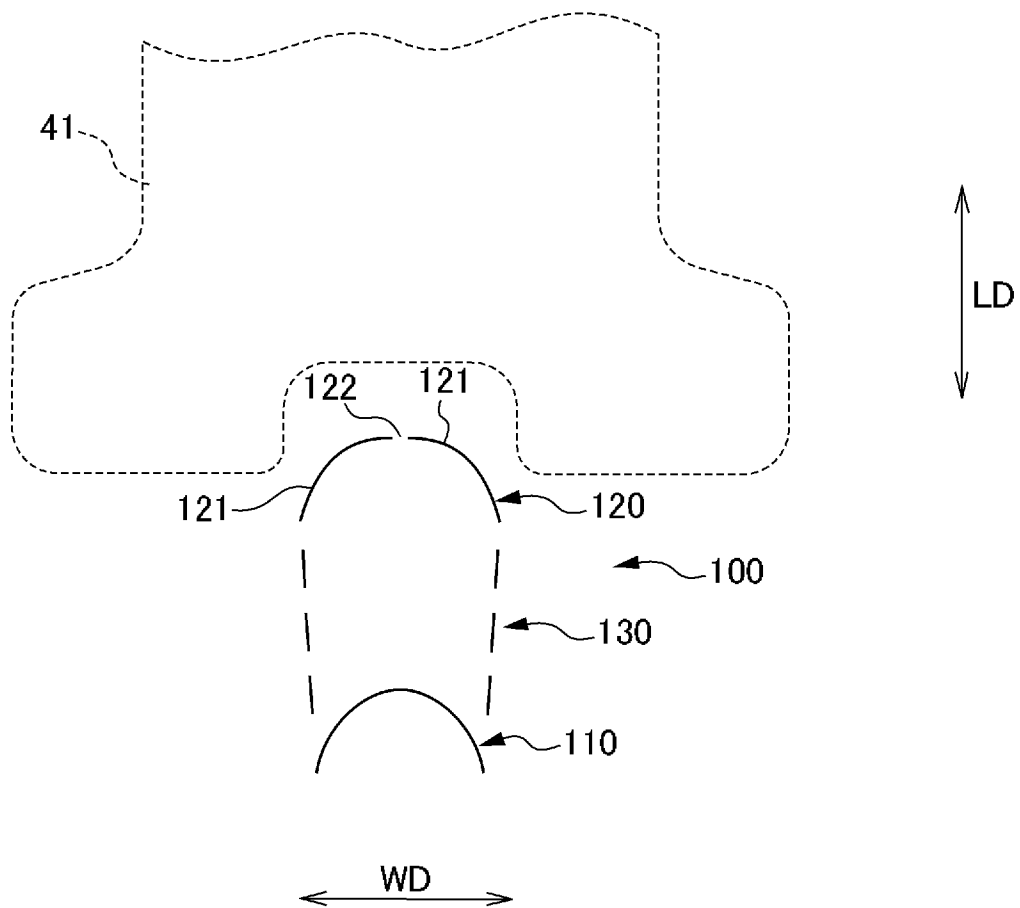
[図7]



[図8]



[図9]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2012/056468

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A01K23/00 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A01K23/00, A01K13/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2012
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2012	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2012

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 10-75679 A (Ohta Eizai Co., Ltd.), 24 March 1998 (24.03.1998), entire text; all drawings & US 5954015 A	1-5
A	JP 3031321 U (Kabushiki Kaisha Petitorasuto), 22 November 1996 (22.11.1996), entire text; all drawings (Family: none)	1-5
A	JP 2003-47360 A (Uni-Charm Corp.), 18 February 2003 (18.02.2003), entire text; all drawings (Family: none)	1-5

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
25 April, 2012 (25.04.12)

Date of mailing of the international search report
15 May, 2012 (15.05.12)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. A01K23/00 (2006.01) i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. A01K23/00, A01K13/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 2 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 2 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 2 年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 10-75679 A (オオタ衛材株式会社) 1998.03.24, 全文、全図 & US 5954015 A	1-5
A	JP 3031321 U (株式会社ペティトラスト) 1996.11.22, 全文、全図 (ファミリーなし)	1-5
A	JP 2003-47360 A (ユニ・チャーム株式会社) 2003.02.18, 全文、全図 (ファミリーなし)	1-5

C 欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

2 5 . 0 4 . 2 0 1 2

国際調査報告の発送日

1 5 . 0 5 . 2 0 1 2

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I S A / J P)

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

松本 隆彦

2 B

2 9 1 4

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 2 3 7